

令和4（2022）年度 第40回「NHK 海外たすけあい」事業報告書



誰も取り残さない。紛争からも飢餓からも。



ヨーロッパの紛争や、
新型コロナウイルスのまん延の陰で、
アフリカの食料危機が深刻化していることは、
あまり知られていません。
注目される人道危機がある一方で、
目が届かない場所、手が届かない場所が
生まれているのです。
関心の差が、支援の差になってはならない。
全ての苦しんでいる人びとを救うため。
あなたのご支援をお願いいたします。

はじめに

苦しんでいる人を救いたい。それはいざという時に誰しものが抱く思いではないでしょうか。

令和4年度は、2022年2月からウクライナ各地で激化した戦闘により、多くの人々が国内だけでなく、周辺諸国に避難する事態となり、紛争の影響について皆様の関心を集めた1年となりました。世界全体をみても、相次ぐ紛争や暴力行為、激甚化する自然災害、深刻な食料危機、感染症の蔓延など、様々な人道危機が複合して起こったことにより、多くの人々が命をつなぐための支援を必要としています。ウクライナに限らず、シリア、アフガニスタン、ミャンマー、南スーダンなどでは、紛争や暴力により避難を余儀なくされる人々の数が第二次世界大戦以降最悪の水準に達しています。また、アフリカ地域では、ウクライナでの紛争の影響を受けて、気候変動問題や経済危機などで生じていた食料危機がさらに深刻化しました。

国際社会は「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」に代表されるような世界共通の目標達成に向け、気候変動などの地球規模の人道課題にそれぞれの地域社会、そして一人ひとりが対応する必要性がますます高まっています。

赤十字は、191の国や地域にある赤十字・赤新月社、赤十字国際委員会（以下、「ICRC」）、国際赤十字・赤新月社連盟（以下、「IFRC」）が共通の理念・原則を持つ「国際赤十字・赤新月運動（国際赤十字）」として一体となって、世界に広がるネットワークと地域に根差したネットワークという両方の強みを生かし、複雑化・長期化・大規模化する人道課題への対応に取り組んでいます。

日本赤十字社は、国際赤十字の一員として、第40回NHK海外たすけあいキャンペーンを通じてお寄せいただいた皆様からのご寄付により、中東地域やバングラデシュ、ウクライナの避難民をはじめ、各地で起きた災害の被災者、アフリカで食料危機や感染症に苦しむ人々など、世界各地の人々に多くの支援を届けることができました。

改めまして皆様お一人おひとりのご支援に深く感謝申し上げますとともに、引き続き皆様からの信頼にお応えするべく、これからも尽力して参ります。

令和5（2023）年8月
日 本 赤 十 字 社



巡回診療に訪れた避難民の話を聞く日赤職員©JRCS

目次

令和4（2022）年度「NHK 海外たすけあい」の実績.....	3
赤十字の国際活動の特徴	5
世界から届いたありがとうの声	6
紛争に伴う難民・避難民などへの対応	8
頻発、激甚化する災害への対応	13
人々のレジリエンスを高めるために	19

※ 8 ページ以降は現在更新中です。9 月下旬に更新予定としております。

令和4（2022）年度「NHK 海外たすけあい」の実績

NHK と日本赤十字社の共催で昭和 58（1983）年から始まった「NHK 海外たすけあい」募金キャンペーンは、令和 4（2022）年度で 40 回目を迎えました。キャンペーンが始まってから今回までに皆様からいただいたご支援は、累計約 287 億円に上り、世界 166 の国と地域の支援を必要とする人々に届けられました。

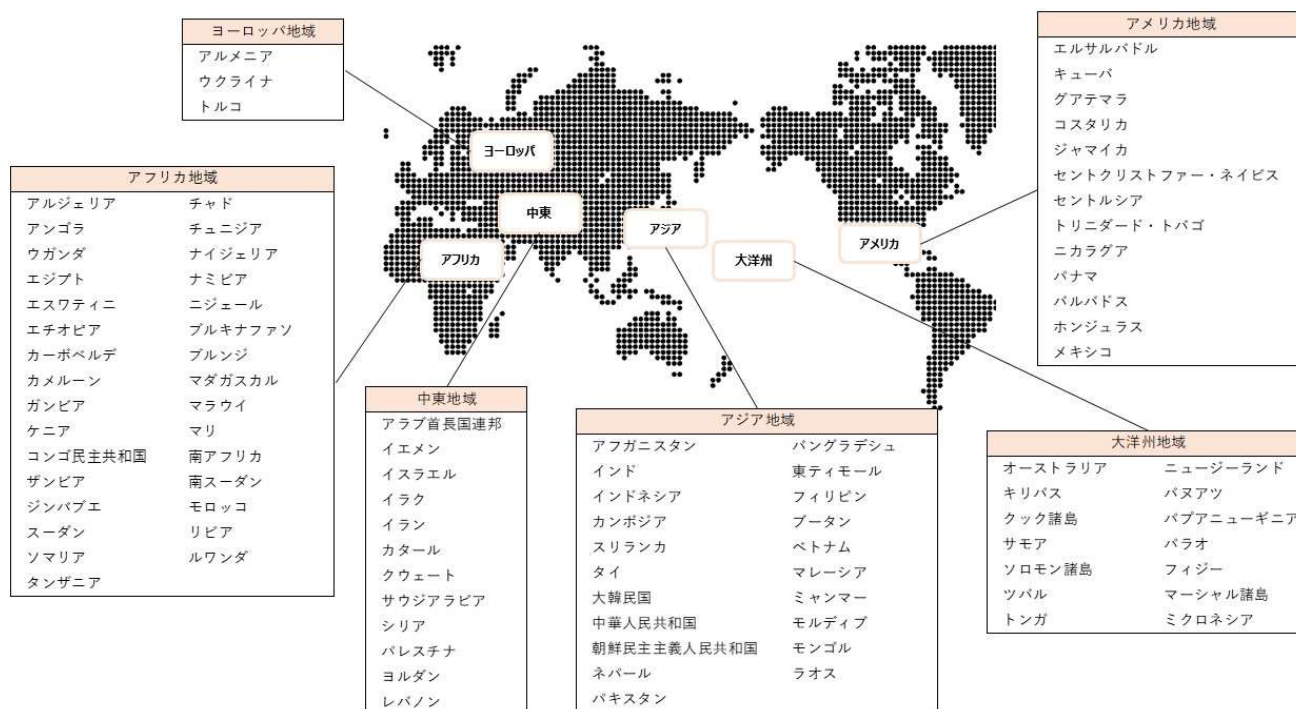
令和4（2022）年度の実績

■ 寄付件数 **83,816 件** ※個人・法人を含む

■ 実績額 **7 億 8,708 万 8,711 円**

令和4（2022）年度の支援地域

紛争地での救援活動や災害時の緊急救援から復興支援、開発協力まで **世界 94 の国と地域** を対象とした支援活動を実施しました。



支 援 金 の 使 途 詳 細 （単位：円）

【収入】

前年度繰越金等	27,414,328
令和4(2022)年度募金額	787,088,711
収入合計	814,503,039

【支出】

紛争に伴う難民・避難民などへの対応	208,756,714
・ バングラデシュ南部避難民への支援	
・ 中東地域の紛争犠牲者への支援	
・ ウクライナ人道危機への支援	
・ その他の地域で紛争に苦しむ人々への支援	
頻発、激甚化する災害への対応	276,624,923
・ 洪水や干ばつ、地震など災害の被災者への支援	
・ アジア・大洋州における災害対策・防災への支援	
・ 緊急時に即時に対応するための救援物資備蓄、体制整備等への支援	
人々のレジリエンスを高めるために	256,768,064
・ 気候変動等に対するレジリエンス強化への支援	
・ 保健医療向上、救急法普及等への支援	
・ 赤十字活動強化による地域総合支援	
NHK 海外たすけあい募集資料等作成費	47,225,323
支出合計	789,375,024

翌年度繰越金

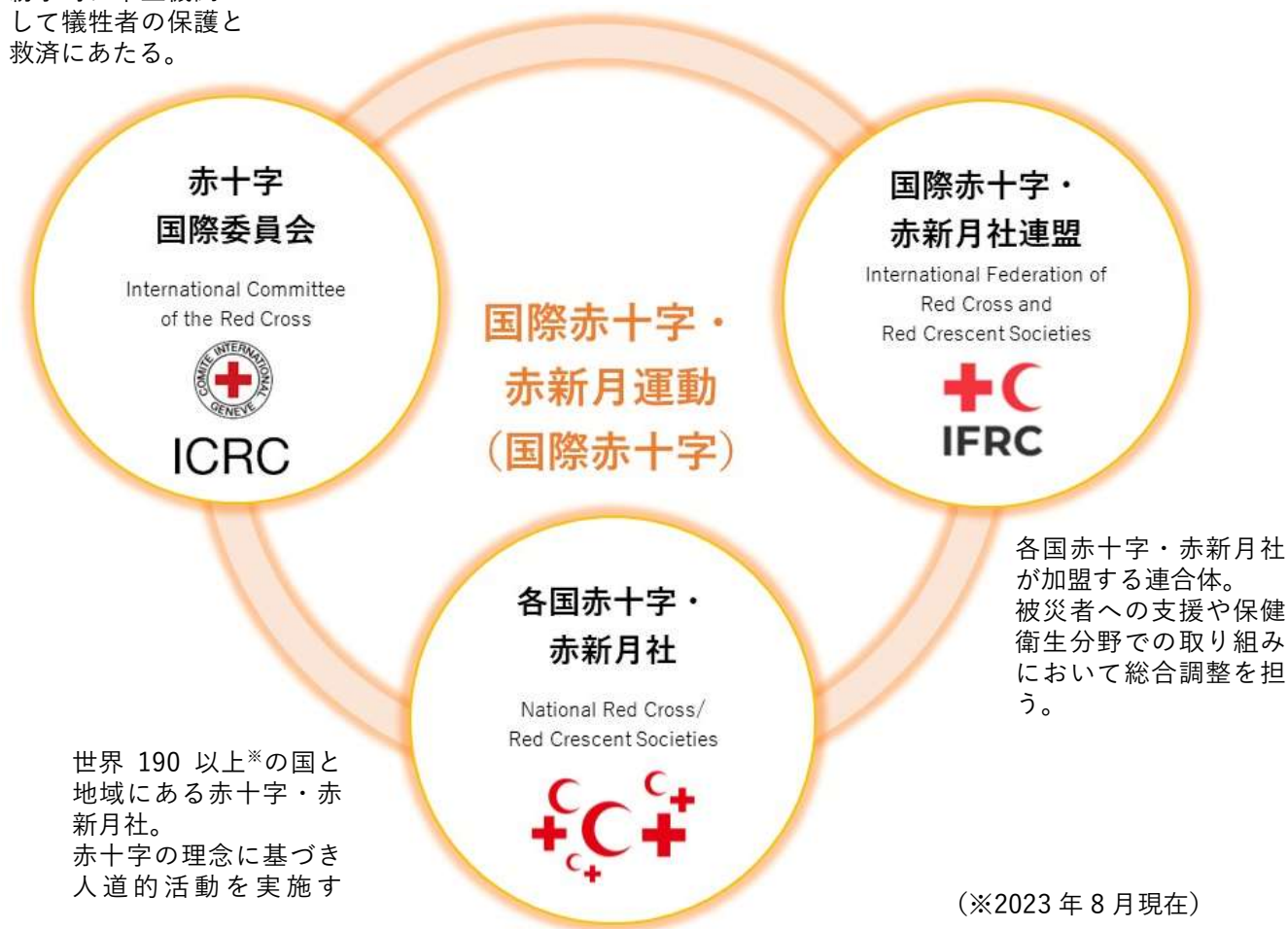
25,128,015

赤十字の国際活動の特徴

「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という赤十字の使命を果たすために3つの機関が活動しています。この3つの機関は紛争時や災害時だけではなく、平時においても互いに協力・連携し、世界各地で人道活動を展開しています。

赤十字の国際的なネットワーク

紛争時に中立機関として犠牲者の保護と救済にあたる。



赤十字の支援の特徴

- ✓ 「苦しんでいる人を救いたい」という共通理念のもと、世界 190 以上の国と地域にある赤十字が支援を直接届けます。
- ✓ 地域に根差して活動しているため、いち早く且つ継続して支援することができます。
- ✓ 各国に赤十字があり、中立の立場で活動しているからこそ、国際支援の届きにくい地域にも支援を届けることができます。



ウクライナ・ウジュホロドで衛生キットを配付する赤十字スタッフ
©IFRC Marko Kokic

世界から届いたありがとうの声

ウクライナ：ミハイロさん



(写真：©JRCS)

ウクライナ南部から避難してきたミハイロさんとその家族は、イヴァノ=フランキウスク州コシブにある集合避難所で暮らしています。ミハイロさんは紛争の爆発の影響でけがを負い、意識のない状態でした。手術や懸命なリハビリを行い、現在は松葉づえをついて歩けるまで回復しました。集合避難所に来たウクライナ赤十字社の巡回診療チームの診療を受け、頭痛薬をもらいました。「ミコライウの病院からこちらに避難するときにも赤十字のボランティアに助けをもらい、現在もこのような医療の支援をもらい本当に感謝しています。」

ウクライナ：ルドゥミラさんと、シトラナさん



(写真：©IFRC)

「私たちはウクライナ東部にある大学で働く同僚です。武力紛争が始まったとき、提携先大学が寮を提供してくれたので、スロバキアに来ました。私は糖尿病なのですが、赤十字に無料で糖度計を提供してもらい、大変感謝しています。スロバキア赤十字社にはとてもよくしてもらっています」

ケニア：ファルヒヤさん



(写真：©IFRC)

「近年、私の村ではお金も食料もまともにない日が続き、私の商売もうまくいかず、生活はかなり厳しかったです。でも、赤十字の現金給付による支援により、村人はまた買い物ができるようになり、私も収入が得られるようになりました。収入を生活に必要なものや子どもたちの学費に充てることができます。今では村人たちの生活も少し良くなり安心しています。」

インドネシア：ノビリタさん



(写真：©JRCS)

ジャワ島に暮らすノビリタさんは、日本赤十字社の支援によりインドネシア赤十字社が開催したさまざまな防災ボランティア研修にこれまで参加してきました。今では若手ボランティアたちのまとめ役を担うお姉さんです。

「新しいことを知って、学んで、その知識を役立てることが出来るのが嬉しいです。活動を通じて、たくさんの人たちに出会えることも楽しみの一つです。災害時には被災した人の家へ駆けつけ対応したことも何度かありました。」